アギー・ラミダ・プットリ

目次

01 プロフィール

02 インドネシアでの生活

03 研修での学び

04 アクションプラン

01 プロフィール

アギー・ラミダ・プットリ

助産師 / インドネシア

アギーさんは、西スマトラ州ソロ群タベ村からの8人目の研修生です。タベ村は州都パダンからバスで３時間程度内陸部に入った山村です。

アギーさんのお母さんは2002年の研修生で、保健衛生・栄養・洋裁などを学び、帰国後は幼児教育の活動を行っています。

アギーさん自身は大学で助産学を専攻し、村で初の助産師になりました。インドネシアでの帝王切開分娩の増加や、高血圧症妊婦の増加などの問題を解決したいと考えています。
また、母子健康手帳の未記入なども散見されることも大きな課題だととらえています。

帰国後は、所属するクリニックで親子学級や、出産前後の母子ケアの啓発活動を促していきたいと考えています。

02　インドネシアでの生活

幼少期 ~ 高校

アギーさんはタベ村で生まれました。この頃のタベ村はスラムではありませんでしたが、電気が通っていなかったり、ゴミが多く、舗装されていない道路も多かったそうです。
村の人たちはみんな知り合いで温かい村だそうです。
小学校は隣の村に通い、行きはお父さんと行き、帰りは歩いて帰っていたそうです。中学校はバイクで20分程。道が悪く大変だったそう。バイクで通っている学生も多いそうです。高校も隣の村へバイクで通い、この頃に道が舗装されたそうです。

大学

2002年の研修生であるお母さんは、アギーさんが高校卒業時前、カデール（母子保健活動の保健ボランティア）でした。
助産師になるか警察官になるかで迷っていましたが、親戚みんなで話し合い、両親が導いてくれた助産師の道を選び進みました。
大学は町にあるため、一人暮らしをしていました。助産学生をしながらの生活は大変だったそう。
日本とは違い、助産師は３年のカリキュラム。座学は少なく7割以上が実習だそうです。1回の実習は3週間から１ヶ月ほど。助産院・病院・保健センター等での実習を行いました。

助産師として

タベ村初の助産師としてタベ村には助産院が無いため、隣町の助産院で働き始めました。２年間で既に150人のお産を取り上げています。
村の出生率は高く人口も右肩上がりであることから、助産師の担う役割はとても大きくなっています。早朝から時には深夜まで母子と向き合う日々。１日に2.3人のお産を取り上げることも多々あるそう。
助産院にはアギーさんともう一人の助産師さん、医師が１人います。しかし、医師が不在な週２日は助産師２人で泊まり込むことも。助産分娩・自宅分娩・オンコール対応に加え、出産前後のフォローまでとても忙しい日々です。
痛みへの恐怖から帝王切開を希望する妊婦が多いことや、妊婦や新生児の栄養状態などに課題を感じています。

アギーの１日

5:30　起床、お風呂とお祈り
6:00　朝の準備と朝食
7:30　クリニックへ出発　到着後、診療準備　掃除
8:00　診療開始
12:00 休憩、お祈り
12:10　昼食
12:30　診療再開
18:15　休憩、お祈り
18:30　夕食
19:00 クリニックで仕事
21:00　帰宅
22:30　就寝

03　研修での学び

アギーさんの研修について

　アギーさんは日本語習得以降、九州に京都に奈良に、汗をかきながら助産院を巡り、日本の助産学を学びました。

　インドネシアと日本では産前産後のケアが大きく異なり、インドネシアでは産後僅か６時間で歩いて家に帰るのに対し、約1週間入院しケアや授乳指導・育児指導を行う日本の産後ケアの手厚さには驚きの連続でした。

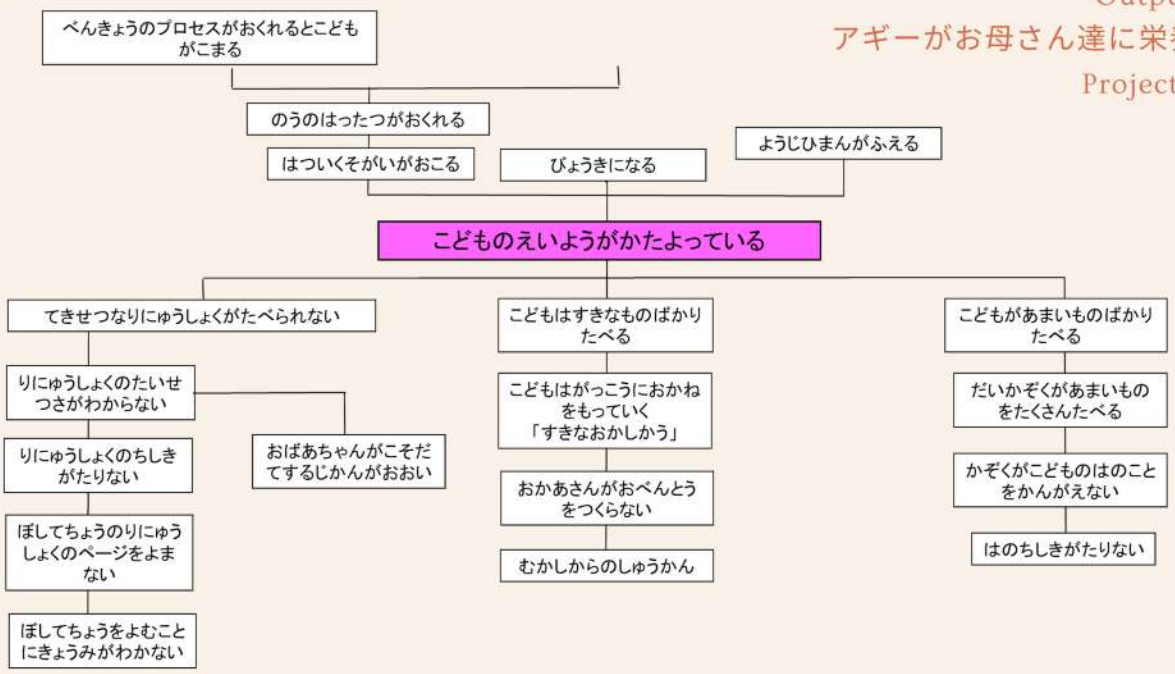
また、日本では基本となる妊婦の食事指導や体重管理、血圧管理、糖負荷試験などの妊婦健診等に参加させてもらいました。ジャカルタのような都市部以外はエコーやNSTを基本的に行わないため、妊婦全員に行う仕組みは新たな発見でした。

また産後のケアとしても、離乳食指導などを学び、帰国後もタベ村に還元していきたいという想いがあります。

神戸YMCA学院専門学校
喜多野クリニック
はらっぱ保育所
しぶや助産院
奈良医科大学
京都医師会看護専門学校
むすび助産院
國本助産院
長崎理恵さん
秋山助産院
あゆみ助産院
まある助産院
カンガルーホーム助産院
愛生園研修
東日本研修旅行
徳永先生手芸教室
あみ助産院
徳廣マッサージ院
芽愛助産院
三木市総合保健センター
西ノ島研修
西日本研修旅行
ステップハウス・ルピナス高砂
山梨YMCA
浜地先生歯科研修
釜ヶ崎研修
淡路モンキーセンター
コープこうべ協同学苑

04　アクションプラン

New　Generation

【いつ】 毎月1回、アリサンPKK（お母さんたちの集まり）週の初め。15時から18時まで。
【どこで】村の集会所 「ルマピンタール」
【だれが】アギーさん＋カデールの人
【なにを】栄養、離乳食、歯磨き、健康について教えます。ベビーマッサージや体操やヨガを教える。
【なぜ】 村の人たちは 栄養や離乳食について知らない人が多い。例えば 離乳食はお母さんが仕事の時はおばあちゃんの担当。甘いお菓子をあげる。栄養の勉強しない。おばあちゃん達は甘いコーヒーやお菓子を食べても今まで大丈夫と言います。習慣を変えるのも気持ちを変えるのも難しい。これまでの研修生も村の人に何度も話したが分からない。環境のことは変えることができた。今は村がきれいになった。次は一人一人の健康が大事。若いおばあちゃんも来るので話を聞いてもらう。将来時間がかかっても高血圧や糖尿病を減らすことができる。
【どのように】村のお母さんやおばあちゃんの生活習慣をみんなの前で話してもらう。生活習慣が悪いと体がどうなりますか？をアギーが教える。始めには妊婦さんの食事書き出してもらう。そのカロリーを助産院でチェックしてみる。わたしは助産師だから権限を持っている、みんなにカデールと違うやり方で教える。教えるときパ ンフレット使う、分かりやすいために優しい言葉と絵を描く。
【目的】 村の女性が健康になって子どもたちにも健康な生活習慣を教えることができる。
【夢】 タベ村で助産院がないから私はアギー助産院作りたいです。

村の子どもたちが健康になる
Super Goal　上位目標
母親が栄養の知識を持ってこどもの栄養バランスがよくなる
Goal　プロジェクト目標
母親の意識を上げる
Output　成果
アギーがお母さん達に栄養のことを教える
Project　プロジェクト